

特集

# 「メディアア」の力で 未来を築く。

特集2

つながる大学、つながる世界

京都精華大学の国際交流

卒業生インタビュー

佐々木良さん／松本勇氣さん

# 木野 通信

KINO PRESS.  
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

第75号

2020 Dec.



# 「メディア」の力で 変革を起こし未来を築く。

吉川 昌孝 — 京都精華大学創造戦略機構教授／2021年4月よりメディア表現学部学部長就任予定

2020年、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、ITやデジタル技術を活用した変革が各所で一気に促進されました。2021年に新設する「メディア表現学部」では、これからのさらなる変化を見据え、テクノロジーを活用し、課題解決とともに新しい価値を生み出す人を育てます。その詳細について、学部長就任予定教員の吉川昌孝が展望を語ります。

## 学部設立の背景

「メディア」とは、情報を運ぶ媒体のことです。メディアと言われて思い浮かべるものは、これまではテレビやスマートフォンだったかもしれませんが、IoTであらゆるものがインターネットでつながる時代は、どんなものでもメディアになります。ただし、テレビやスマートフォン向けのコンテンツやサービスを、

そのまま家電に移し替えてもうまくはいきません。たとえば、その日の顔色に合わせたメイク動画を映してくれる鏡や、記念日の前にレストランの予約を促してくれる自動車など、メディアの形に合わせて新しいコンテンツやサービスをつくる必要があります。メディアの多様化に伴って、今後はこれまでにないコンテン

ツやサービスがたくさん生まれるでしょう。それらは私たちの暮らしを変え、生き方を変え、社会を変えていきます。メディア表現学部は、そんな新しい時代を自らつくり出していく人を育てるために誕生します。

商業も工業も法律も、世界中のあらゆるものが変化し始めています。そういった歴史的変革の中心にあるものが、情報媒体「メディア」です。これを研究する人や機関は、大幅に増えていくでしょう。

ただし、メディア表現学部は、情報媒体を研究するだけの学部ではありません。情報媒体を活用した新しい価値を創造して、実際に変化を起こそうとする学部です。学びを通して、社会の課題を解決する力、そして未来の社会を創造する力を、実践しながら身につけてもらいたいと考えています。



吉川 昌孝  
博報堂のマーケティング局、生活総研、博報堂DYメディアパートナーズ、メディア環境研究所長を歴任。著書に『「ものさし」のつくり方』、『AFTER SOCIAL MEDIA』など。NHK「三宅民夫のマイあざ!」レギュラーゲスト、東京大学大学院学際情報学府修士課程在籍中。

## 「社会と関わる」教育の理由

### プログラミング科目必修化のわらわら

メディアの進化を加速させているのは、「デジタル化」の波です。昨今は、あらゆるものをデジタル化することでイノベーションを起こす「デジタルトランスフォーメーション(DX)」という概念が、幅広い分野で浸透しています。デジタル化が進んだ社会で新しいモノやコトを生み出すには、プログラミングの知識と技術が欠かせません。小学校でプログラミング教育が必修化されたことからわかるように、今後は「読み・書き・そろばん」のように、プログラミングが基本リテラシーのひとつになるでしょう。なお、メディア表現学部では、技術習得そのものを目的としていません。この点が、これまでの大学におけるアプローチ

と大きく異なる点ですね。プログラミングはあくまでも、各自がもつ課題解決のための手段として学びます。まずはめざすもの、つくりたいものが先にあり、そのために必要な知識を習得する、という発想で、今後とも変化し続ける社会で、実践的に活躍できる人を育てます。

### 社会との関わりを重視する理由

「つくるだけ」、「調べるだけ」、「研究するだけ」。それではメディア表現学部がめざす力は育ちません。メディアは、人々が情報を受け取ってはじめて成立し、またその反応に応じて変化し続けるものです。つまり、社会と関わってこそ成り立つ存在。そのため授業では、学生に積極的な発信を促すことになりました。さらに、いま社会で起こっている最先端の情報を持つ企業との連携や、実践的なりサードも重視しています。学生には、社会に働きかけ、フィードバックを得て作品を進化させる面白さを、体感しながら学んでほしいと思います。

### 「新しい価値」のつくりかた

メディアを活用し、人や社会を変える「新しい価値」をつくることに挑戦します。テーマや形式は問いません。これまでにない映像コンテンツを制作してエンターテインメント界に革命を起こしても

いいし、SDGsの目標を達成するための画期的なサービスを構築してもかまいません。貧困などの深刻な社会問題を、独自の視点で読みとぎ、わくわくするような楽しい仕掛けで解決する案があってもいいですね。型にはまらない人を育てる京都精華大学らしいと思います。人を惹きつける魅力的なアイデアをいかに生み出すのか、「表現の大学」に所属する学生の腕の見せどころですね。

この学部では自由度の高さゆえに、多彩な知識と技術が必要になります。そのため学生が学ばなければならないことは多岐に渡ります。カリキュラムには、前述したプログラミングをはじめ、メディアとは何かを原理的に理解するための理論や、各種コンテンツを制作するための技術を学ぶ授業があります。また、理論や技術を実社会に展開していくためには利用する人と関係を築くカスタマー・リレーションシップ・マネジメントや、運営を継続させるためのマーケティングなどの知識も必要です。私たち教員も、新しい情報や知識を吸収し続け、学生に提供しなければならぬと考えています。ただ、どんなに勉強量や作業量が多くなっても、それを楽しめる環境づくりには配慮したいですね。重苦しい空気からは、おもしろいアイデアは生まれませんから、

### イノベーションを起こすプログラム

まだ構想の段階ではありますが、他学部と連携して学ぶプログラムはぜひ実現

させたいと考えています。新しい発想や考え方は、多様性に満ちた環境から生まれるもの。学外の企業や団体はもちろん、他学部の学生や留学生と協働する機会があれば、必ず良い相乗効果が得られるはずです。芸術系・文系・理系の思考、さまざまな国の価値観など、いろいろな立場の人が交差する京都精華大学の刺激的な学びの場は、理想的な教育環境ですね。メディア表現学部の活動は、他学部や協力企業にもプラスの影響をもたらすことができると思います。社会にイノベーションを起こす力を、多様性を認め合うなかで育てていく。これこそがこの学部の使命だと考えます。

### 世界の未来を任せたい

こちらの想像を超えるようなことや、びっくりするようなことを「しでかしてくれる」ような学生に出会えることを期待しています。もちろん「良い意味で」ですが(笑)。オープンキャンパスで高校生と話をすると、「ユニークなことを考えているんだな」と感心することが多いです。なかには、素晴らしいアイデアを持っているのに、自信がなさそうに語る高校生もいます。そんな若者たちの背中を押して、自由にのびのびと力を伸ばせる場所を用意したい。メディアと表現には、人や社会を変える力があります。メディア表現学部から、日本や世界の未来を任せられるような人が巣立ってほしいと願っています。



新学部開設記念 連続ウェビナー開催中!

新学部に就任予定の教員を交えながら、研究の意義や新学部開設に向けた想いを独自の視点で語る連続ウェビナーを開催中です。開催されたウェビナーを少しだけご紹介します。

メディア表現学部のウェビナーは「テクノロジーで社会課題を解決するメディア表現」がテーマ。記念すべき第1回目は、同学部に客員教員として就任予定の黒田貴泰氏と、学部長就任予定の吉川昌孝の対談「コロナシフトで生まれるライブエンタメ未来形」でした。エンターテインメントは衣食住に比べると不要不急のものごと。従来のパッケージ・メディアが衰退するなかで、過密を生み出すライブに注力してきたエンタメが、コロナ後の世界でいかに新たな価値を生み出しているのか、黒田氏自身の経験に根ざした刺激的なトークが繰り広げられました。

一方の国際文化学部は「ローカルとグローバルの現場と、共生としての国際文化」が全体のテーマです。口火を切ったのは、地域医療の第一人者で、医師・社会運動家の色平哲郎氏と、本学学長で国際文化学部グローバルスタディーズ学科の教員も務めることになるウスビ・サコの対談「共生社会と国際文化の未来」。中心的なトピックになったのは、学生たちがこの学部で体験することになるフィールドワークの重要性。自らの慣れ親しんだ地を離れ、未知の世界に行くことで、断片的な知識やこれまでの常識が壊されるようなショックを味わう。その経験は、「他者を知り、自分を知る」ことにつながると、登壇者それぞれが体験を交えて語りました。開催済のプログラムの一部は、京都精華大学公式YouTubeチャンネルで公開されています。新学部が持つ可能性の一端を、ぜひ体感してみてください。

ウェビナーの一例

メディア表現学部ウェビナー

「テクノロジーで社会課題を解決するメディア表現」

「MIT Spatial Sound Labが拓くCreativity」

イアン・コンドリイ（メディア表現学部客員教員/MIT教授）×吉川昌孝（メディア表現学部長）

「プログラミングで高まる実装力と構想力」

松村慎（メディア情報専攻教員）×吉川昌孝（メディア表現学部長）

「メディア表現を生み出す“場のデザイン”」

安田昌弘（音楽表現専攻教員）×吉川昌孝（メディア表現学部長） など

国際文化学部ウェビナー

「ローカルとグローバルの現場と共生としての国際文化」

「アフリカでビジネスをする」

合田真（日本植物燃料株式会社）、中須俊治（アフリカドッグス）、森重裕子（株式会社ア・ダンス）、清水貴夫（グローバルスタディーズ学科長）

「これからの人文学一次世代の若者たちへのメッセージ」

内田樹（人文学部客員教授）、稲賀繁美（国際日本文化研究センター教授）、司会：ウスビ・サコ（京都精華大学学長）

「アートの世界でグローバルに活動する」

高橋瑞木（香港CHATディレクター）、水田拓郎（グローバルスタディーズ学科教員） など



YouTubeチャンネルでアーカイブ動画（一部）配信中

●メディア表現学部就任予定教員  
イメージ表現専攻  
ICM / メディアアート  
Onidits Pul / WEB開発・VR・AR  
Atticus Paul Sims / 映像制作・VR・AR  
音楽表現専攻  
安田昌弘 / ポピュラー音楽研究・文化社会学  
小松正史 / 音環境デザイン・サウンドスケープ論  
平野砂峰 / コンピュータ音楽・メディアアート・サウンドスケープ  
落見子 / コンピュータ音楽・音楽教育  
谷口文和 / 音楽学

※その他にも、多様なフィールドで活躍する専門家が就任予定です。

メディア情報専攻  
松村慎 / デジタルコンテンツ制作  
共通教員  
吉川昌孝 / メディア論・マーケティング  
大下大介 / コミュニケーションデザイン  
客員教員  
黒田貴泰 / stu.Inc CEO  
Ian Condry / MIT教授  
Michael Bjorn / エリックソンのコンピューターラボヘッド



FACULTY OF MEDIA CREATION

未来をつくる人を育てる多様な教員

メディア表現学部には、さまざまな経歴と専門分野を持つ教員が多数、就任を予定しています。既存の分野の垣根を越えて第一線で活躍するメンバーから、2人の新任教員をご紹介します。



客員教員  
黒田 貴泰  
stu.Inc CEO

コ ロナ以降、世界の概況は大きく変わってきています。テンプレートに固執した方法は、どんどんA-などの技術的なものに代替されていく。そうした状況が今後も加速するでしょう。新たな技術をいかに取り入れ、活用し、かつてない価値を生み出していくか。どういった職種をめざすにしても、これこそがこれからの世界を生きる人たちの課題になっていくと思います。つまりポジティブに捉えれば、若い感性が活躍する時代になるということです。メディア表現学部でその感性を磨き、組織やプロジェクトで発揮してほしいと思います。

Profile

テクノロジーを駆使したクリエイティブを提案するstu.IncのCEOである黒田氏。初音ミクのライブの開発、米津玄師らの輩出、そしてNHK紅白歌合戦やTWICEなどのライブ演出、TVアニメ「イースタデイをうたって」のプロジェクト統括など幅広いエンターテインメントに携わってきました。音楽や映像、空間、料理、アートなどジャンルや国境を越え、常識や分断のない「クリエイティブコンプレックス」を通し、新時代を踏破する異次元のアイデアを生み出した黒田氏が客員教員に就任し指導します。



メディア情報専攻 教員  
松村 慎  
株式会社スクール  
代表取締役

私 はプログラミングと外国語を学ぶことが好きです。それはどちらも言語（language）であり、さまざまな物事や人々につながることで、自分の行動範囲を広げることができるものだからです。技術の進歩が急速で、社会の状況がめまぐるしく変わる今、他者とながら、新しい価値を生み出していくことが重要になってきています。大学生活では今まで出会ったことのないようなモノや人と触れ合う機会が沢山訪れることでしょ。メディア表現学部に入學するみなさんには、それらを積極的に取り入れ、今後の人生の糧となるものを見つけてほしいと思っています。

Profile

海外の社員を積極的に迎え、多国籍なクリエイティブチームづくりを行っている松村氏。アプリの開発や、Webデザインとプログラミングを基礎から学べる学校の運営、ウェブクリエイターの学園祭eventの主催など、その活動は多岐にわたります。2002年にカナダのパンクバーから帰国し、Fastnetペロッパーとして勤務。2006年に株式会社スクールを設立しました。メディア表現学部では必修科目となる「プログラミング」の授業を担当予定。いずれは自身の経験を生かし、海外との活発な連携や実践的なプロジェクト、海外インターンシップなども構想中とのこと。



# つなぐ大学、 つながる世界

## 京都精華大学の国際交流



### Theme 1 キャンパスで国際交流

#### グローバルコモンズ新設

2021年度末に竣工予定の新校舎内に多文化交流や異文化理解のための共同スペース「グローバルコモンズ」を新設します。これまで京都精華大学においては、iC-Cube(アイシーキューブ/Inter-Cultural Communication Commons)が、同様の機能を持ったスペースとして利用されてきました。年を追うごとにイベント数や利用者数が増加し、キャンパス内で楽しく異文化に接する場として愛されてきたiC-Cube。新たな校舎では、その機能をさらに進化させた国際交流拠点として生まれ変わります。引き続き、英語をはじめとする多彩な言語でのコミュニケーション、講演会、ワークショップなどの国際交流イベントを開催していく予定です。人々のバックグラウンドや属性を理由とした不自由や差別、排除のないキャンパスをめざす本学の象徴の一つとして、多彩な人々が交流し高めあっていく場になるでしょう。

■ iC-Cubeのイベント数・利用者数推移

年 度	2015	2016	2017	2018	2019
イベント数	139	127	153	258	444
参加者数(延数)	951	1,045	1,476	2,247	4,872

開学当初から掲げる「国際主義」にもとづき、広く国内外に開かれた教育を行う京都精華大学。多様な人々が集い、つながるグローバルな場として進めてきたさまざまな取り組みのなかから、多岐にわたる国際交流事業について紹介します。



#### 国際学生寮・修文館

2017年3月、キャンパスから徒歩10分の立地に開設された国際学生寮・修文館。日本人学生と留学生が2人1室とともに暮らし、生活のなかで起こりうる「異文化交流」から自他の文化のありようを学びます。学生たちは、共同生活によって互いの価値観を受け止め合い、着地点を見つけていきます。さらに、異文化理解や日本文化をテーマとした独自の教育プログラムも実施しており、生活と教育が密接に結びついた寮として、多様性を学びあうコミュニケーションを学内に広げる役割を担っています。

#### 修文館の教育目標

- ① 多様な価値観を受け入れ、異なる文化を持つ人々と共生することができること
  - ② 自らの持つ文化的背景を再認識することによる自己アイデンティティの確立
  - ③ 自らの考えや意見を発信し、主体的に行動することができること
- ※2021年度はコロナウイルス予防対策として1人1部屋で運用しています。

#### 日本で初めての クムルス加盟校

世界61カ国340校の加盟校を持つ世界最大規模の芸術系大学コンソーシアム「Cumulus(クムルス)」。京都精華大学は、日本で初めての加盟校です。2008年にはクムルス国際デザイン会議を主催。持続可能な環境や社会を実現していくために、デザイン教育が果たすべき新しい使命と役割を提言した意義深い会議として、現在でも語り継がれています。その後、各国の加盟校との連携を強化・開拓しながら、社会的な課題の解決に向けたソーシャルデザインやソーシャルイノベーションの方向性を探求しています。

#### 大規模国際研究会議 I CASを主催

I CAS(アジア研究国際大会)は、アジア学を学際的な観点から論じる大規模な国際会議です。1998年以降、2年に一度の研究大会が開催されており、2021年度の第12回大会は本学が主催校に選定されました。現時点では対面とオンラインの両方で開催を予定。8月24日から27日まで、国立京都国際会館を主な会場として、パネルディスカッションなどの学術会議の他、伝統産業に関する展示会、ブックフェアなど、さまざまな文化イベントを計画しており、世界70カ国から約2000名の参加が見込まれます。

#### 国際的研究プラットフォーム シェアード・キャンパスに加盟

京都精華大学は2019年12月から、国際的な教育・研究プラットフォーム「Shared Campus(シェアード・キャンパス)」に創立メンバー校として加盟しています。このプラットフォームは、地球規模の課題解決にむけて、ヨーロッパとアジアの7つの芸術大学が連携し、国境を越えた学術的交流を生み出すことを目的としています。そこでは各大学の教員が混在するグループに分かれ、1つの研究テーマに取り組みます。本学からは「社会変動」、「クリティカル・エコロジー」などのグループに教員が所属し、さまざまな国の研究者と共同研究を進めています。「シェアード・キャンパス」加盟校の本学在学および関係者は、本プラットフォームで行われる教育・研究活動に参加し、国際的な最先端の議論に触れる機会を得ることができます。

2020年10月から12月にかけては、本学教員も参加する「ポップ・カルチャーズ」研究グループが「自己イメージ」をテーマとしたオンラインレクチャーを実施。芸術と科学、デザイン、文章、音楽などさまざまな切り口で「自己イメージ」とは何かを探究しました。



### Theme 3 京都の国際化に貢献



「京(みやこ)グローバル大学」は、留学生誘致をはじめ、日本人学生の海外留学派遣、海外大学との連携などの国際化促進を行う大学に対し、京都市が補助金を交付する制度です。本学は、「KYOTO INSPIRATION: 京都文化の発信による留学生誘致と多文化ラーニング・コミュニケーションの創成」と題して、学生が多様な文化を学ぶ国際的なキャンパス環境の構築をめざした事業を展開してきました。今年度からは「アフリカとインドからの戦略的な留学生受入れと人材育成体制の整備」を目的とした新たな4年間の事業が再び採択されました。諸政策の効果もあり、キャンパスに受け入れている外国人留学生の数も大きく増加し、「京都」の国際交流の発展にも貢献しています。

#### 京グローバル大学の 事業採択と展開

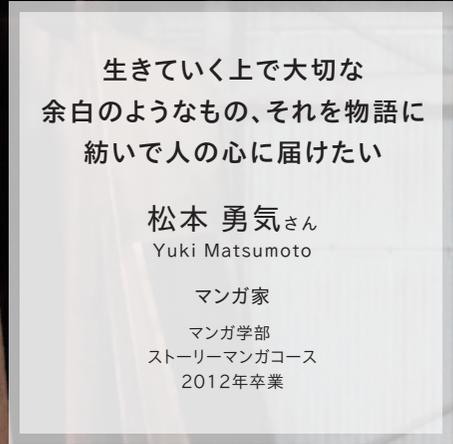
### Theme 2 海外大学・機関との連携



絵筆をペンに持ち替えて、  
瀬戸内の風景と歴史を  
1000年後に伝える

佐々木 良さん  
Ryo Sasaki

作家  
株式会社万葉社 代表取締役  
芸術学部 造形学科 洋画コース  
2008年卒業



生きていく上で大切な  
余白のようなもの、それを物語に  
紡いで人の心に届けたい

松本 勇氣さん  
Yuki Matsumoto

マンガ家  
マンガ学部  
ストーリーマンガコース  
2012年卒業



# 卒業生インタビュー

独自の道を歩む京都  
現在の活動や今後の夢、

精華大学の卒業生に、  
セイカの思い出を伺いました。



セイカの思い出

みんなで競うように作品をつくってましたね。卒業制作は瀬戸内をモチーフにした絵画を描きました。



セイカの思い出

「マンガ以外の表現に触れるからこそマンガが描ける」と学生時代に知り、今もそう思っています。



特別定額給付金で万葉社を設立し、  
ニュースにもなった

瀬戸内の島々に魅せられて執筆・出版活動を手がける佐々木良さん。これまでに『美術館ができるまで』『令和は瀬戸内から始まる』(ともに啓文社書房)を上梓し、アトで注目を集める豊島や直島の知られざる歴史をひもといてきました。学生時代は洋画を学び、卒業後は地中美術館、豊島美術館、京都現代美術館に勤務。豊島美術館の立ち上げに関わったことから生まれた『美術館ができるまで』で作家としてのスタートを切りました。豊島との出会いは香川県に住んでいた中学時代。「社会科学見学で、当時産業廃棄物の不法投棄が大問題になっていた豊島を訪れました。そのときの印象は、臭くて汚い」。ところが、後に豊島美術館の立ち上げて再び降り立ったときには、とても空気がきれいな島になっていました。この変化に驚き、アトだけではなく島の歴史を伝えたいと思ったんです。



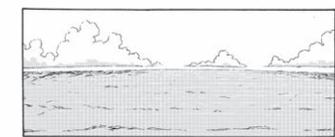
2019年9月「ぼらの京都 マンガコンテスト」授賞式にて、  
さそうあきら先生(右)と

小さいころから物語を考えることが好きで、ストーリーマンガコースへ入学したという松本勇氣さん。セイカでは物語を紡ぐためのアプローチがいくつもあることを学び、視野が広がったといいます。大学卒業後は、70年もの歴史をもつ児童劇団「風の子」で役者をしながら、たゆまずマンガを描き続けてきました。そして2019年に『かくれや一族』で「ぼくらの京都マンガコンテスト」最優秀賞、2020年には『スタンドバイミー』が講談社の「ちばてつや賞」大賞に輝きました。それらの作品は「目に見えないもの」がテーマ。夢とうつつのはざまを漂うような余韻が評価されました。現在は、連載に向けての準備を開始しており、来年からはマンガの創作だけに注力するそうです。「児童劇団は退きませんが、観客である子どもたちの反応を直



出版前からつねに分厚い草稿を持ち歩き、チャンスを探っていた

美術業界から文筆業への転身を「表現したいものは変わらず、絵筆をペンに持ち替えただけ」という佐々木さん。大学の卒業制作も、日本美術の要素を取り入れて描いた瀬戸内の風景でした。「祖父は高松在住の工芸家でした。瀬戸内や日本美術への興味はその影響かもしれません」。学生時代に印象深い授業は、3年生の夏休みに参加した「京都の伝統産業演習プログラム」。漆芸家の先生から日本美術の伝統を学んだことが、美術と歴史を横断する現在の活動の糧に。「貴重な学びでした。他にも、自分の表現で人に何かを伝え、力を合わせてひとつの展覧会を作り上げた、大学4年間の経験すべてが今の本作りにつながっています」。今年の8月には、特別定額給付金を原資に、夢だった出版社・株式会社万葉社を立ち上げました。万葉集の現代語訳をはじめ、多彩な出版企画が進行中とのこと。「万葉集のように千年後も読み継がれる本を作るのが目標です。面白い本を出していくのでご期待ください」。



京都精華大学で行われている研究について、活動内容をご紹介します。  
今回は2020年度の学長指定課題研究※から、遠隔地をつないで行う  
教育・研究に関する取り組みをピックアップしました。

※学長が指定する特定の課題・テーマに則した先進的な共同研究を推進する制度

## 「遠隔授業の取り組みと課題 ——京都精華大学独自の方向性を探る」

すがやみつる

(研究代表者／国際マンガ研究センター)  
専門は教育工学(インストラクショナルデザイン)



新型コロナウイルスの影響で、日本だけでなく世界中の学校が休校や遠隔授業への移行を余儀なくされました。しかし、全学共通のLMS(ラーニングマネジメントシステム)を持たない京都精華大学の授業は、文部科学省が定めていた、教員や学生の間での相互作用的なやりとりが可能な「メディア授業」の条件に充分ではありません。

感染症収束の見通しも特になく、近年増加傾向にある自然災害も考慮すれば、今後も遠隔授業が必要とされる可能性については覚悟しておくべきでしょう。

そのために必要なことは何か？ 本学の遠隔授業に欠けているものは何か？ 求められる遠隔授業の姿を明らかにし、「精華らしい遠隔教育」を提案することが研究の目的です。

この研究の最大の特色は、本学の遠隔授業の現実を把握したうえで、これまでのオンライン教育では触れられてこなかった「実技・実習系科目」のオンライン授業構築をめざす点にあります。インタビューやアンケート、海外や他大学の動向などの調査も行いながら、この課題に取り組んでいます。

## 「アジア・アフリカのイスラーム文化理解と ダイバーシティ促進へ向けた大学における取り組み」

阿毛 香絵

(研究代表者／人文学部教員)  
専門はアフリカの都市化と生活の変容など



一言でイスラーム圏と言っても広大。それぞれの地域における歴史や文化・政治的背景も異なります。この研究の目的は、アジア・アフリカ圏の異なる文化について理解を深めること。そして本学を中心とした日本の大学や教育機関における多様なイスラーム文化理解へ向けた取り組みの現状と可能性について調査することです。同時に、ICTも活用し、学生や職員と共に文化理解や共生へ向けた実践的な活動も進めています。

## 「Highly Integrated E-Learning At Seika (HELAS)」

辻田 幸広

(研究代表者／マンガ学部教員)  
専門はコミュニケーション・アートやユーザー・エクスペリエンス



コロナ禍において、オンライン授業に注目が集まっています。対面的な指導を第一義とする考えが依然支配的ですが、オンライン学修プラットフォームの導入は、出欠管理や理解度把握の効率化、アクティブラーニングの授業設計などに利点が及びうものです。私たちは、先進的な事例を調査しつつ、現時点で利用可能なツールを使って授業テンプレートを作成することを試みています。

## 学長指定課題研究一覧(2020年度)

- 『アートを観る／買う／参加する場としての新たなアーティストフェアの可能性について』伊藤まゆみ(展示コミュニケーションセンター)
- 『留学生のキャリア支援に関する研究』小柴裕子(学修支援センター)
- 『アフリカ・アジア現代文化研究の発展的展開のための研究支援と国内外ネットワークの構築』清水貴夫(人文学部)
- 『人文学部ニューデント・モンス(O&B)多様な学生の居場所として、また多様な文化への理解醸成の場として』田村有香(人文学部)
- 『京都精華大学におけるダイバーシティとインクルージョン実態調査研究』ティーター・ジェニファ・ルイス(共通教育機構)
- 『アントシキングとデザインシキングの融合』「セイカシキング」の研究開発『森原規行(デザイン学部)』
- 『シェアードキャンパスを通じた本学研究・教育活動の国際的活性化』フェリスT/SACKO1 (Seika's Access to shared Campus Kernel Organization Phase 1)』安田昌弘(ホビー・カルチャー学部)
- 『「心理教育」によるダイバーシティ推進についての研究(2)』ダイバーシティからインクルージョンへの心理教育を目指して』山本有恵(学修支援センター)
- 『京都の伝統産業を表現するビジュアル研究』米原有二(人文学部)

# 木野からヤツホー

あの先生元気かな...?  
そう思っている卒業生のみさんへ、  
セイカの教員からのメッセージです。



1



2



3

1. 『Afterimage 20-Mar-C』  
キャストペーパーにアクリル、油彩、  
25×50×2cm、2020年(武蔵)
2. アイルランド、トリニティカレッジ・  
ベケットセンターでの舞踏(三上)
3. ラブクラフト原作のSFホラーマンガ  
『クトゥルフの呼び声』(おがわ)

学生の顔が見られるのは  
やはり嬉しいですね。



おがわ さとし  
マンガ学部ストーリーマンガコース

新型コロナウイルス感染症対策の影響で、2020年度の前期は全て遠隔授業でしたが、後期になってやっと対面授業が始まりました。まだおそろおそろの運用ですが、学生の顔が見られるのはやはり嬉しいものです。当たり前の日常のありがたさを感じます。個人的な仕事としては、板橋しゅうほう先生たちと『ZONE of CTHULHU』という電子雑誌を作っています。僕は6号まで『クトゥルフの呼び声』というH.P.ラブクラフト原作のSFホラーマンガを連載して、これは電子書籍になっています。8号からはオリジナルの続編『クトゥルフの呼び声1969』を連載中です。良かったらご覧ください。

舞踏を通じ学生たちと過ごした  
素敵な時間を想っています。



三上 賀代  
人文学部 総合人文学科

私の専門である暗黒舞踏は舞踊界でも異端でした。が、人文学部に開設された「三上・身体表現ゼミ」には、前期最終日の白塗り暗黒舞踏体験のほか、歌い踊り演じるだけでなく、学生プロレスラーやサーファー、ボランティア活動から入国管理局問題を考え始めた学生等、青春をまっすぐに一杯生きた学生たちがいました。花火師、僧侶、看護師、舞踏家になった卒業生たちもいます。コロナ禍の中で行われた「ニュー ブランシュ Kyoto 2020」出演を経て、これまで舞踏家である私と国内・外の公演活動に出演、参加してくれた学生たちと過ごした充実した時間を改めて想い起こしています。

「セイカらしさ」とは何か  
もう一度考えるべきときです。



武蔵 篤彦  
芸術学部 版画専攻

京都精華大学に版画専攻が設立された1987年からずっと版画を教えてきました。現在は跡形もなくなってしまった版画専攻の古巣の2号館で、学生たちと共によく学びよく遊んだころのことを懐かしく思い出します。時は移り、精華大は今、5学部を有するようになって、建物数も当時と比べてほぼ倍になり、キャンパスは大きく様変わりしました。ゴツゴツして野性味溢れる昔の「セイカらしさ」がずいぶん薄らいだように思え、少し寂しい気持ちになるときもあります。大学創立から半世紀が過ぎ、今の「セイカらしさ」とは何かを改めて考える時期なのかもしれません。

## 新学部の就任予定教員によるウェビナーを連続開催



### 国際文化学部ウェビナー

「ローカルとグローバルの現場と共生としての国際文化」(全9回)

2020年9月25日(金)～12月11日(金) WEB開催

### メディア表現学部ウェビナー

「テクノロジーで社会課題を解決するメディア表現」(全6回・予定)

2020年10月16日(金)～2021年3月19日(金) WEB開催



YouTubeチャンネルでアーカイブ動画(一部)配信中

国際文化学部とメディア表現学部、2つの新学部開設を記念し、就任予定の教員が主催する連続ウェビナーを2020年9月から開催しています。

国際文化学部は「ローカルとグローバルの現場と共生としての国際文化」をテーマに、アフリカでのビジネスのあり方と展望や、京都をフィールドとした研究の可能性などのトピックで、全9回の日程を終了。学生たちのロールモデルとして、各分野において現場を重視し、独自の道を切り開いてきた多様なゲストを招き新学部の教員たちと話を展開しました。

「テクノロジーで社会課題を解決するメディア表現」をテーマと

するメディア表現学部のウェビナーは全6回予定。新学部長就任予定の吉川昌孝がホストを務め、ライブエンタメ、メディア・アート、プログラミングなど「文系・理系・芸術系」という既存の枠を越えたゲストたちとともに語るプログラムで、12月半ば現在、第2回まで開催されています。

多様な専門性をもつ教員が、研究の意義や学部開設に向けた想い、これからの世界で何が求められていくのかを独自の視点で語る新学部ならではの内容となっています。これまでに行われた回は、いずれも多数の視聴者が参加し、好評を博しました。

## ブラック・ライヴズ・マター運動の重要性



### WEB講演会

「日本におけるブラック・ライヴズ・マター(黒人の命を尊重しろ)運動を考える」

中 カンタベ サハイメキナ・ジャクソン  
コーディネリア・ユー・ウズビ・サコ(司会)  
2020年7月16日(木) WEB開催

2020年7月16日、WEB講演会「日本におけるブラック・ライヴズ・マター(黒人の命を尊重しろ)運動を考える」が行われました。開催趣旨は、制度的人種差別や黒人に対する暴力を根絶するための世界的な運動に呼応しつつ、日本でも重要な動きであること示すこと。ウズビ・サコ学長を司会に、登壇者3名が発表を行いました。

アーティスト、中カンタベ・サハイ氏は、昨今の出来事は単発の事件ではなく、非人道的な人種隔離などの社会制度が生み出したものであることや、ご自身が黒人として日本で差別を受けた体験について語りました。ブラック・ライヴズ・マター関西のキナ・ジャクソン氏は、

その後は質疑応答とアンケートの時間が設けられ、今後の関連イベントへの関心などを含め、ポジティブな感想が多く寄せられました。また、反黒人差別の運動が自分の問題であることを理解し、この活動に貢献したいという意思を示す声も多く見られました。

ソン氏は、ブラック・ライヴズ・マター運動の経緯や、関西での活動を解説しました。デザイン戦略の専門家コーディネリア・ユー氏は、自身が関わっているプロジェクト「黒人の人たちの命のための手紙」を紹介。「黒人差別や警察暴力、人種の正義について、開かれた対話の場を作ることをめざしている」と説明しました。

## 「何を、いかに、なぜ表現するのか」に迫る2つの講演会を配信

開学から続く公開講座「アセンブリーアワー講演会」を今年もWEB配信と合わせて実施しました。2020年10月7日(水)には、作家の黒川創氏を迎え「なぜ私は書くのか」を開催。ご自身の過去を振り返りながら、現代の社会において文学、芸術、思想はどのような役割を果たすのかについて語られました。

繰り返し強調されていたのは、表現とは想いを「人に伝える」「人に届ける」行為だということ。黒川氏は、1%の少数派になっても自分の意見を発信したいと言います。講演の最後には若い世代に向けて、表現を通して思考を深め、自分なりの答えを人に届けてほしいと激励の言葉を述べられました。



### アセンブリーアワー講演会

「なぜ私は書くのか」 黒川 創

2020年10月7日(水)

学生・教職員のみ学内会場/学外・一般の方へはWEB配信

### 「制作すること/生活すること」 下道基行

2020年10月15日(木)

学生・教職員のみ学内会場/学外・一般の方へはWEB配信

10月15日(木)には、アーティスト、下道基行氏の「制作すること/生活すること」を開催。どのような視点で日常を暮らし、制作に取り込んでいるか、義母の生活習慣を2年間撮りためた写真作品「ははのふた」など自作の紹介を交えてお話しくださいました。

対象を観察し、記録する下道氏の作品の根底にあるのは他者への尊重。「破天荒な生活を表現の糧にしたいと思う作家もいるかもしれないが、私は家庭や日々の生活を大切にしたい」というお話から氏の作品が持つあたたかまなざしの理由を垣間見ることができました。

## マリ危機をめぐって、議論と情報提供の場を

2020年8月18日、長年にわたる内紛の渦中にあるマリ共和国において、政治腐敗や治安の悪化に反発する市民に後押しされる形で軍の一部が大統領を辞任に追い込みました。

こうした情勢について、メディアから得られる情報の少ない日本においても活発な議論を交わす場が必要であると考え、本学アフリカ・アジア現代文化研究センター主催のもと、8月29日に緊急WEBシンポジウム「マリ危機と西アフリカ経済共同体(ECOWAS)の役割」・日本からの分析と危機脱却の考察」を開催しました。

ウズビ・サコ学長が司会を務め、セイドゥ・ディエエ氏(在日マ



### 緊急WEBシンポジウム

「マリ危機と西アフリカ経済共同体(ECOWAS)の役割:日本からの分析と危機脱却の考察」

2020年8月29日(土) WEB開催

リ人協会会長)などマリ人4人を含む5人の発表者と7人のコメントーターが登場し、国内外から232人の視聴者が参加。議論は2時間半以上におよびました。

特に、ECOWASのような地域共同体や国際組織が、いかにマリの複雑な文化・歴史的文脈にもとづく現状を理解し、より民衆に寄り添う形でマリの政治的、経済的な安定を確保することに貢献できるかに注目が集まりました。

参加者からは「フランス語圏アフリカの情報は日本ではあまり得られないため勉強になった」、「マリからの登壇者が多く、生の声を聞ける機会となったよかったです」などの感想が寄せられました。

## 京都国際マンガミュージアムイベント

※無料(ミュージアムへの入場料が別途必要)

- 「もうひとつの原画」展  
～東浦美津夫・飛鳥幸子・ささやなえこ・忠津陽子～  
開催中～2021年4月6日(火) 10:00～18:00  
〔休館〕毎週水曜、  
年末年始(2020年12月26日～2021年1月6日)、  
2月25日(木)、26日(金)、3月25日(木)、26日(金)  
〔問い合わせ先〕  
京都国際マンガミュージアム  
☎075-254-7414

## 本館ギャラリー展示企画 ※入場無料

- 創造的ドローイング 作家になるために How to be an artist  
2021年1月8日(金)～1月13日(水)
- タイカン後期学修成果発表会2021  
2021年1月20日(水)～1月22日(金)
- 京都精華大学大学院1年生研究制作展  
Kyoto Seika University Graduate Schools  
1st Year Student Show  
2021年1月26日(火)～1月30日(土)  
※本館ギャラリーおよび瑞雲庵も会場となります  
〔休館〕日・祝・大学が定めた日  
〔時間〕10:00～18:00

## 京都精華大学展(卒業・修了発表展)

※入場無料、事前申込制

2021年2月11日(木・祝)～2月15日(月) 10:00～17:00  
〔場所〕京都精華大学  
※2月13日(土)・14日(日)はオープンキャンパスも同時開催します

## 【在学生・卒業生・教職員限定】 高見島プロジェクト出品者募集

2022年9月末～11月上旬に行われる瀬戸内国際芸術祭・高見島で展示する作品を募集しています。提出物の提出期限は2021年2月26日(金)です。右のQRコードから募集要項を確認のうえ、ご応募ください。



## 活躍する在学生、卒業生の 情報を募集しています。

多数の在学生が社会貢献活動やコンテストでの受賞など広く活躍しています。詳細はぜひウェブサイトをご覧ください。また、今後も木野通信では、活躍する在学生や卒業生情報を紹介していく予定です。情報をお持ちの方は、広報グループまでお知らせください。

- 京都精華大学 ウェブサイト  
<https://www.kyoto-seika.ac.jp>
- 広報グループ  
kouhou@kyoto-seika.ac.jp



## News 05



### アフリカ・カメルーンのマリア大学と 協定を締結

京都精華大学は、アフリカ・カメルーンのマリア大学と一般協定を締結しました。今回の基本協定締結を受けて、今後は研究交流や人材交流を積極的に行い、両大学の研究の発展に貢献していく予定です。本学は、アフリカやアジアをフィールドとする研究者やアーティストが集う拠点として、2020年4月にアフリカ・アジア現代文化研究センターを設置しました。また、2021年には、国際文化学部グローバルスタディーズ学科および学科内にアフリカ・アジア文化専攻を開設します。アフリカ・アジアに関する研究や活動を実践的に深めていくための拠点として、国や分野を超えた創造的活動の、さらなる発展をめざします。

## News 06



### 持続的な社会の構築に向けて 「京都精華大学SDGs宣言」の発表

2020年12月、ウスビ・サコ学長が「京都精華大学SDGs宣言」を発表しました。これまで本学は、2018年に「関西SDGsプラットフォーム」に参加し、学内環境整備や教員の研究活動のなかで、積極的にSDGsの達成目標に該当する取り組みを行ってきました。本学の教育理念である「人間尊重」と「自由自治」、そしてダイバーシティ推進コンセプト「違いとともに成長する」の考え方は、SDGsの趣旨「誰一人取り残さない」と根本を同じとすると考えています。これからも、すべての人の違いを尊重しながら、持続可能な社会の構築に貢献するために、全学的にSDGsの実現に向けて取り組んでいきます。

※SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。

## News 03



### 国際マンガ研究センター主催の公募展 「マンガ・パンデミックWeb展」開催

2020年9月から12月にかけて、本学国際マンガ研究センターと、平和のための博物館国際ネットワークの主催によるオンライン展覧会「マンガ・パンデミックWeb展」を開催しました。本展覧会は「第10回国際平和博物館会議」の一環として実施。ヴァーチャル空間で「平和を展示する」ことを目的に、「マンガ」が持つ自由自在な表現力と国際的な拡張力に着目して企画されました。本展では内容の陳腐化を防ぐため掲示作品はあらかじめ選定せず、会期中に応募された作品をリアルタイムで発表する形式を採用しました。作品は日本のみならずノルウェー、中国、ドイツなど国内外からプロ・アマ問わず寄せられ、コロナ時代の「平和」と「暴力」を、視覚的に表現する展覧会となりました。

## News 04



### 伝統産業イノベーションセンターが マンガ人類学の手法で調査報告

10月23日、フランス国立科学研究センター(CNRS)主催「Waza on the Move Ineffable arts of learning」にて、伝統産業イノベーションセンターが実施した和紙に関するフィールド調査の発表をおこないました。本研究は、フランスから文化人類学者を招聘し、和紙の制作工程における「動作」や自然環境との関わりについて調査しているものです。全調査にイラストレーターのホリグチツツ氏(マンガ学部卒業生)が同行し、研究者の論文とともに記録イラストをまとめています。CNRSと伝統産業イノベーションセンターでは「マンガ人類学」と呼ぶこの研究手法を今後もさらに深め、さまざまな伝統的な手仕事の調査研究に展開していきます。

## Student 01



### 在学生・卒業生が「ICAF2020」に出品 「観客賞」第1位も受賞

2020年9月から10月にかけてオンラインで開催された学生アニメーションの祭典「ICAF(インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル)2020」に、芸術学部映像専攻とマンガ学部アニメーションコースの在学生・卒業生計13名の作品10点が出品されました。視聴者からの投票によって選出される「観客賞」では、対象となる22作品のなかから本学マンガ学部卒業生、上貝初実さんと豊田照砂さんの作品『with me.』が見事第1位の票数を獲得しました。同作品は2019年度卒業制作展で学長賞も受賞しています。お二人の作品は、本誌の表紙イメージにもなっており、ウラ表紙のQRコードから全編ご視聴いただけます。

## Student 02



### コロナ時代の課題をデザインで解決 ロームシアター京都で在学生が展覧会開催

デザイン学部ビジュアルデザイン学科が、京都岡崎蔦屋書店と連携し、在学生が企画、運営を行う展覧会やWEBイベントを開催しました。本取り組みは新型コロナウイルス感染症をめぐる課題について、美術を学ぶ学生ならではのアプローチでの企画、実施を目的としたものです。展覧会は「とまらない美大生『美的浪漫主義』プロジェクト」と題して、2020年8月から9月にかけてロームシアター京都で開催し、「ソーシャルディスタンス」の間隔を視覚的に意識させる作品展示を行いました。関連WEBイベント「BIDAISEI QUESTION」も実施し、新型コロナウイルス感染症対策の影響でまだ大学に通えていなかった関西圏の美大1年生の質問や不安に回答しました。

## ～ご支援くださる皆様へ～ (ご寄付のお願い)

本学のさらなる教育・研究活動の充実、学生生活の支援のため、  
ご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

### ●寄付募集Webサイト

<https://www.kyoto-seika.ac.jp/about/donate>

新型コロナウイルス緊急対策支援の募金を行っております。  
学生への緊急支援を実施するにあたり、皆様のお力添えを  
お願いいたします。



### ●古本募金 Webサイト

<http://kishapon.com/seika>

読み終えられた本やDVDなどが京都精華大学への寄付となります。

2019年度は、総額8,658,186円(個人・法人あわせて166件)のご寄付をいただきました。  
古本募金は、保護者や卒業生など多くの方々から4,851冊の書籍類のご提供を受け、合計で  
170,501円のご寄付となりました。ご協力いただいた皆様、まことにありがとうございました。

お問い合わせ(リーフレット請求先)

京都精華大学 経営企画グループ 寄付募集担当

E-mail:kikaku@kyoto-seika.ac.jp

TEL 075-702-5201

FAX 075-702-5391

『木野通信』送付先ご住所等の変更を希望される方は、  
木野会ホームページまたはFAXで変更事項をご連絡ください。

京都精華大学 経営企画グループ 木野会事務局

<http://seikajin.com>

FAX 075-702-5391



### 表紙の作品

『With me.』 2019年度 卒業制作

上良 初実さん/豊田 照砂さん

マンガ学部 アニメーションコース

上映時間：6分42秒(右記から本作が視聴可能です。)



窓から見える景色を眺めている。町の人々は歩いていく。学生だったり、向いの店の店主だつたり、サラリーマン、精肉店へ買い物に行く女性。いたずらっ子な子供たちはコンクリートに落書きをして遊んでいる。ランドセルを背負った少年たちはどこか楽し気にかけていく。懐かしい光景だった。そんな風景を、今日も何気なしに眺めている。

母に手を引かれた日なたのような女の子が、ふとこちらへ気が付いた。

## 京都精華大学

### 芸術学部

[造形学科]

洋画専攻

日本画専攻

立体造形専攻

陶芸専攻

テキスタイル専攻

版画専攻

映像専攻

### デザイン学部

[イラスト学科]

イラストコース

[ビジュアルデザイン学科]

グラフィックデザインコース

デジタルクリエイションコース

[プロダクトデザイン学科]

プロダクトコミュニケーションコース

ライフクリエイションコース

[建築学科]

建築コース

### マンガ学部

[マンガ学科]

カートゥーンコース

ストーリーマンガコース

新世代マンガコース

キャラクターデザインコース

マンガプロデュースコース

ギャグマンガコース

[アニメーション学科]

アニメーションコース

### ポピュラーカルチャー学部

[ポピュラーカルチャー学科]

音楽コース

ファッションコース

### 人文学部

[総合人文学科]

文学専攻

歴史専攻

社会専攻

### 大学院

芸術研究科

デザイン研究科

マンガ研究科

人文学研究科

※2021年度に国際文化学部、メディア表現学部、人間環境デザインプログラムを設置予定

## 木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第75号

2020年12月20日 発行

京都精華大学 広報グループ

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

TEL 075-702-5197 [www.kyoto-seika.ac.jp](http://www.kyoto-seika.ac.jp)

本冊子は文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に係る交付金から一部支出しています。